

## 2026年1月 浜松聖書集会のご案内

(時間:午前10時～正午)

### ○1月 4日(日) 集会

(クリエート浜松 22号室)

司会:大手 美千代

聖書講話:テサロニケの信徒への手紙 4章13節～5章26節

「パウロの終末観とキリスト者の生き方」 水戸 潔

### ○1月11日(日) 集会

(クリエート浜松 21号室)

司会:永井 徹

感話:野澤 功

聖書講話:ローマの信徒への手紙 13～16章

「人は皆 上に立つ権威に従うべきです」 溝口 春江

### ○1月25日(日) 集会

(クリエート浜松 52号室)

司会:生江 扶左子

聖書講話:マタイによる福音書 3章1～12節

「悔い改めよ 天の国は近づいた」 武井 陽一

### 日ごとに新しく生まれる

溝口 正

「一日は、私どもにとりては短き一生涯であります。朝生まれ、昼に働き、夜は復活の希望を いだいて眠りの床につきます。かくして私どもには一年に三六五回の生涯があります。なんと楽しいことではありませんか。」

(『続一日一生』はじめ 内村鑑三)

何という充実した言葉ではありませんか。このような“一日一生”という充実した一日を生きるために、毎日がキリストに在ることによってのみ可能となるのであります。聖書は、キリストに在るならば、それができると教えております。では、キリストに在るとはどういうことでしょうか。これはむつかしいことではなく、私たちが神にゆるされ愛されている神の子どもとして、父なる神に「天のお父さま」と呼び掛けて 祈ることができればそれがキリストに在る証明であります。それができない時は、ちょっと 危ないので。毎日祈ること、聖書に親しむこと、父なる神の御声に靈の耳を傾けること、これを毎日するのがキリストに在る神の子どもの生活であります。

(1993年1月3日『復活』第316号)